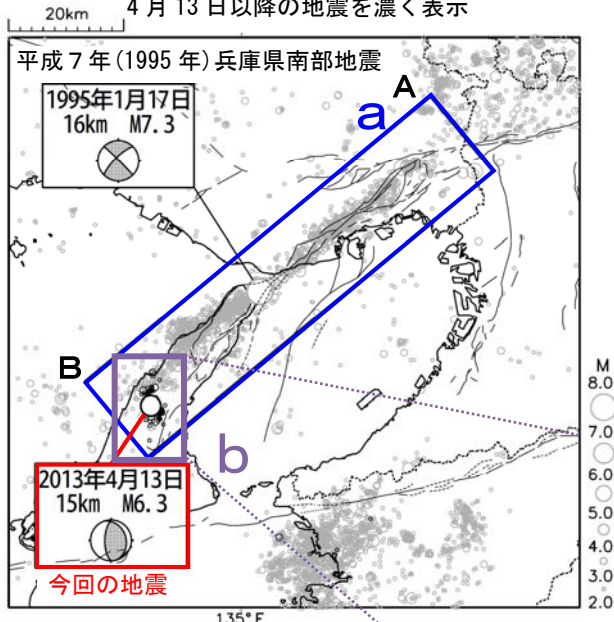


4月13日 淡路島付近の地震

震央分布図

(1990年1月1日～2013年5月1日、
深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)
4月13日以降の地震を濃く表示

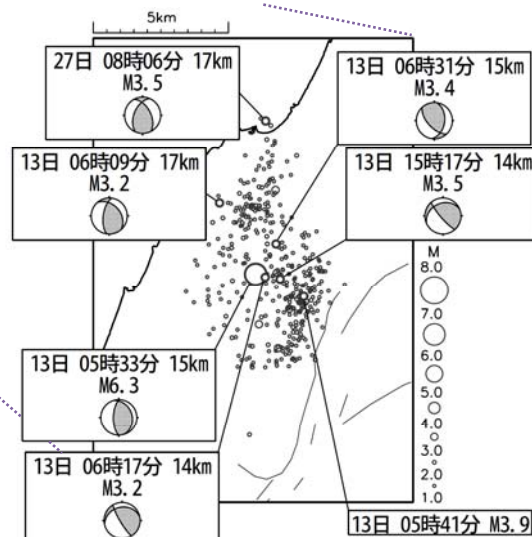


2013年4月13日05時33分に淡路島の深さ15kmでM6.3の地震(最大震度6弱)が発生した。この地震は、「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」の余震域の南西端に近接する領域で発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。

地震活動は本震-余震型で推移し、余震活動は減衰してきている。これまでの最大余震は、この地震の約8分後に発生したM3.9の地震(最大震度3)である。

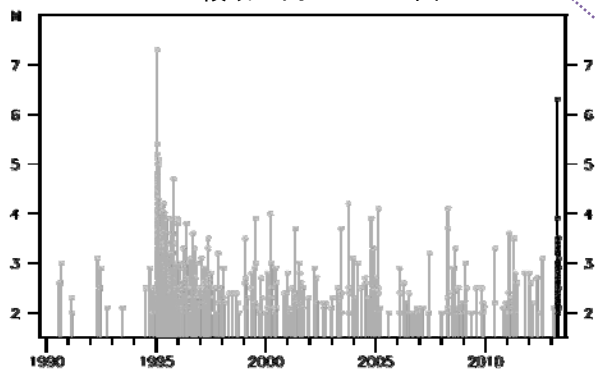
領域bの震央分布図

(2013年4月1日～5月1日、
深さ10～20km、 $M \geq 1.0$)

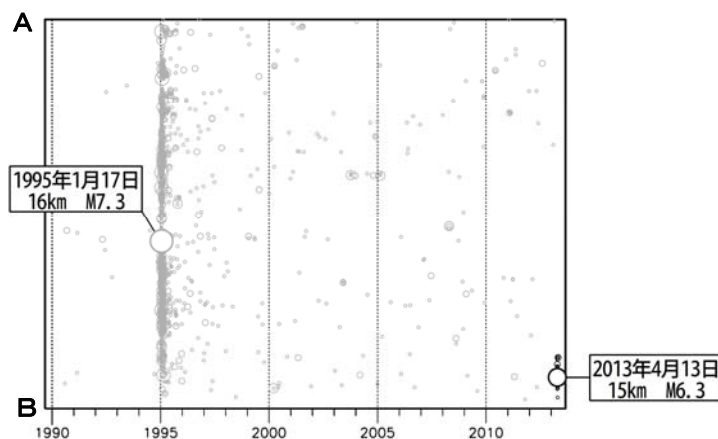


細線で地震調査研究推進本部による
主要活断層を表示

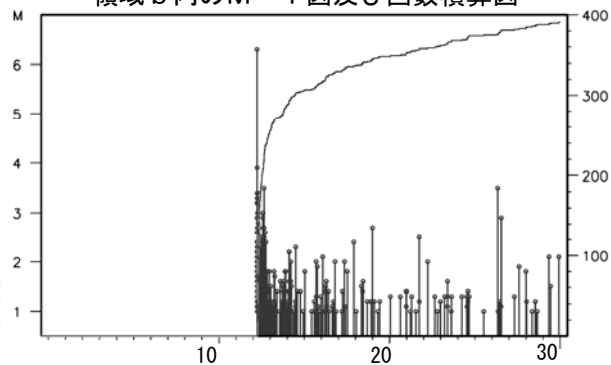
領域a内のM-T図



領域a内の時空間分布図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図

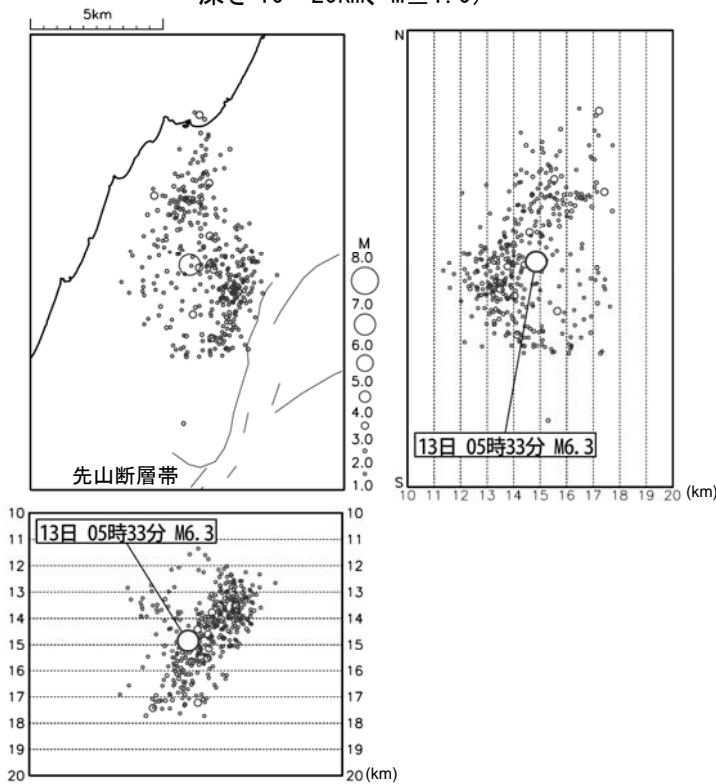


今回の地震の余震分布と本震の発震機構から推定される震源断層は、南北方向に延びる西傾斜の逆断層と考えられる。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）でM6.0以上の地震は、今回の地震のほか、「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」、および1936年の河内大和地震がある。

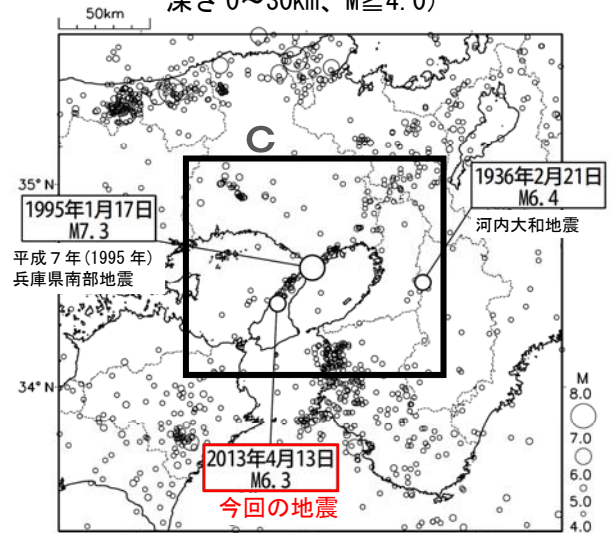
さらに広域でM7.0以上の地震としては、1927年に北丹後地震、1943年に鳥取地震、1945年に三河地震、1948年に福井地震、平成12年（2000年）鳥取県西部地震などが発生している。

領域bの震央分布図と断面図
(2013年4月1日～5月1日、
深さ10～20km、M≥1.0)

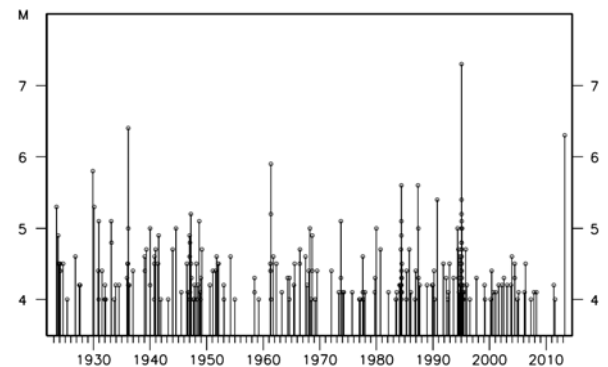


細線で地震調査研究推進本部による
主要活断層を表示

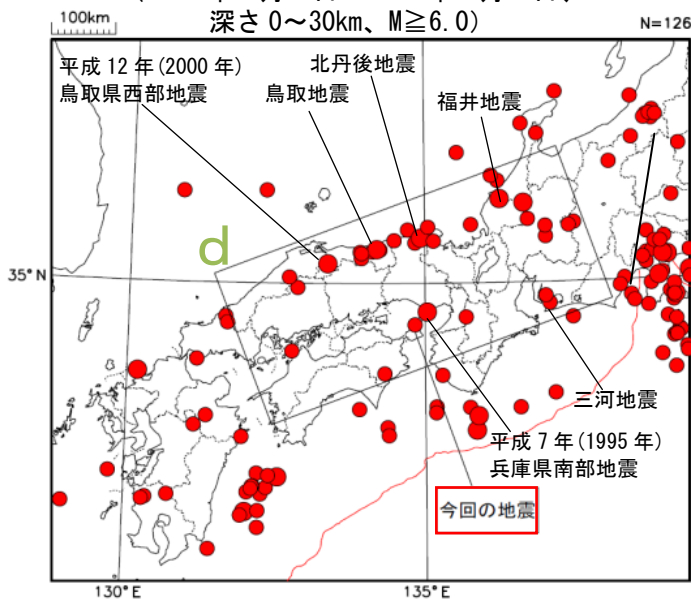
周辺の震央分布図
(1923年1月1日～2013年5月1日、
深さ0～30km、M≥4.0)



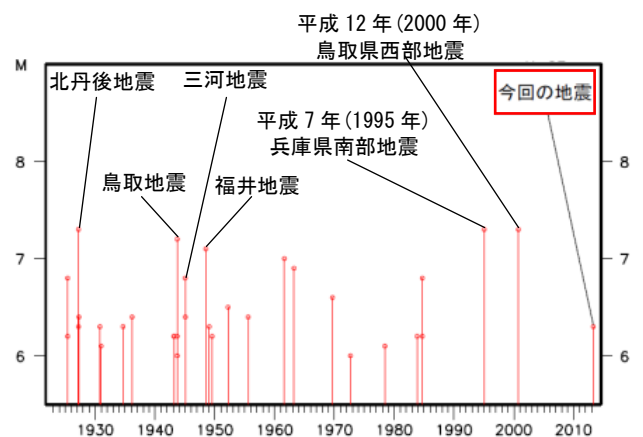
領域c内のM-T図



広域の震央分布図
(1923年1月1日～2013年5月1日、
深さ0～30km、M≥6.0)

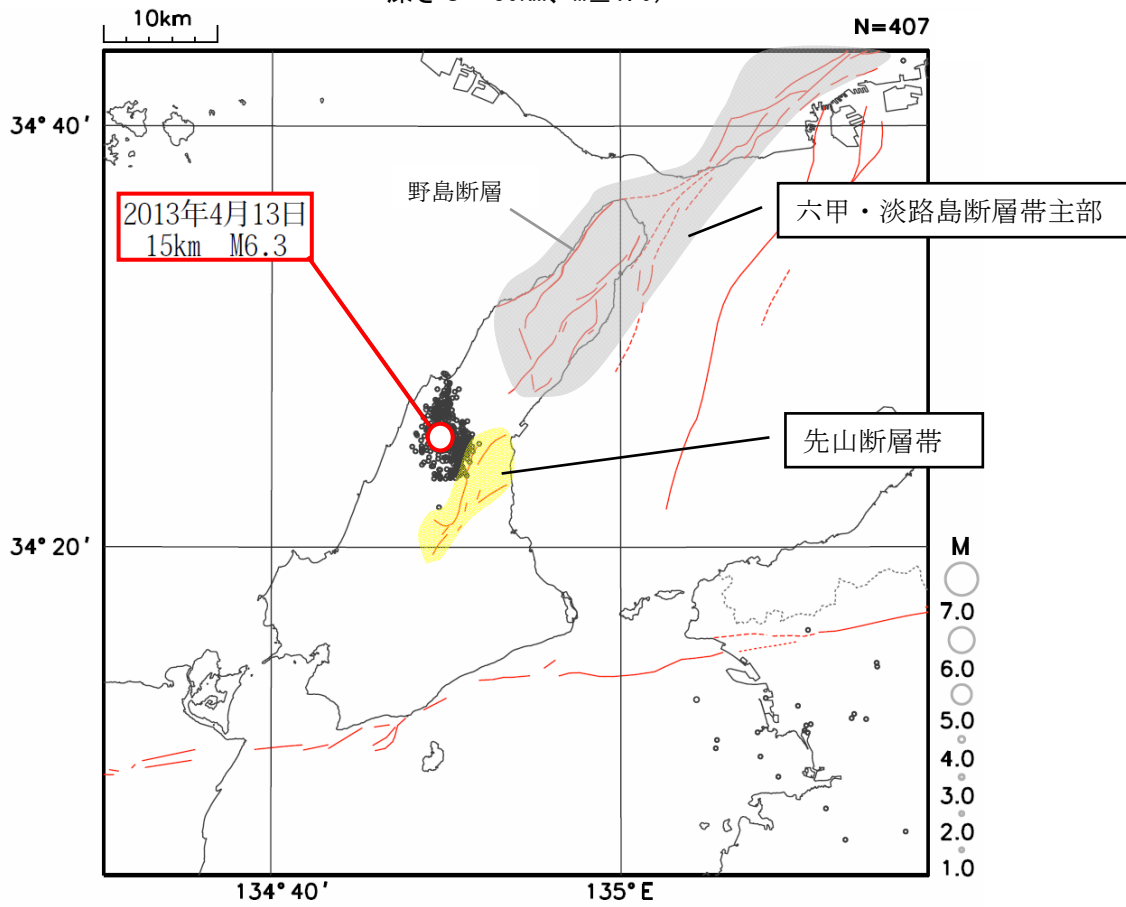


領域d内のM-T図



淡路島付近の地震と活断層

震央分布図
(2013年4月13日～5月1日、
深さ0～30km、 $M \geq 1.0$)



細線で地震調査研究推進本部による主要活断層を表示している。